

こころ

kokoiro

情報誌
2026.5

伊丹市立男女共同参画センター「こころ」は
性別にかかわらずなく、個性と能力が発揮できる
社会づくりの拠点施設です。
誰もが気軽に訪れ、学び、交流できる、
地域に関われた男女共同参画センターを
目指しています。



「俳句とジェンダー」



すぎた なほ
杉田 菜穂さん

3月8日は、国際女性の日。女性運動の高まりを背景に国際女性年と定められた1975年に、国連がこの日を記念する活動を開始した。毎年、3月8日には女性の社会的、経済的、文化的、政治的な業績を認識し、男女平等を促進することを目的として国際女性の日行事が世界で開催される。イタリアではミモザの日と呼ばれ、男性が身近な女性に日ごろの感謝の気持ちを込めてミモザの花を贈る習慣がある。

俳句の季語を集めて分類・整理されている歳時記を開くと、ミモザは春の季語として掲載されている。小花が枝に満ちて淡い光をまとっているミモザの明るい黄色を見ていると、春の気分に入ることができる。

沸き立つといふ咲きぶりの花ミモザ

大橋敦子

この句が巧く捉えているシュワシュワと泡がはじけているようにも見えるミモザのもつイメージと自由に生きられる環境への思いを重ねることで、次の句が生まれた。ミモザの日を意識しながら詠んだミモザの俳句だ。

好きなこと好きなだけして花ミモザ

杉田菜穂

「誰もが誰かと補いあって生きていて、そのなかにジェンダー（社会的、文化的な性差；生まれ持った身体的性差ではなく、後天的に身につけた性差）がなぜ構築されるのか」。そんな問いの延長に女性俳句とは何かということ突き詰めて考えてみようとする、「（歴史的に）女性俳人は、女であることを意識しないで詠むことは難しかったのではないだろうか」「女であることをめぐる外からの視線への身構えや自問の積み重ねは、単に俳句作品だけでなく自らの存在確認にまで及

んで、ほとんど無意識のうちに女性俳句のDNAとして女性俳人から女性俳人へと今日まで受け継がれてきたのではないだろうか」という問いが浮かんでくる。というのは、俳句の歴史のなかで、ことさら（女性自らによっても）女性であることを意識した批評がよく見られるなどして女性の俳句が一段低くみられがちだった時代は長く続いた。そんな時代に活躍した女性俳人たちが自分の立ち位置を外から見る冷静な目を持っていたから（あるいは、持たされたから）こそ、今日における「女性ならでは」というような枠に収まらない女性俳句の充実があるのではないかと思えてくるのである。

詳しく説明するのを断念して短く言い切る俳句は「男性的な詩型」。そんなふうに使われた俳句に女性が本格的に参入したのは近代以降のこと。通史としての女性俳句を作品鑑賞によって検証した『鑑賞 女性俳句の世界』（全6巻・角川学芸出版；2008年）が示すように、女性俳人たちはそれぞれの時代で模索を重ね、表現を開花させていった。現代俳句を女性抜きで語ることはできないが、家事やケア労働に縛られて一句詠みに出るなどともないという状況が一般的だった時代から今日に至るまでの女性俳句の歴史は、女性の地位向上の歴史にも重なる。

その女性俳句の立役者となったのは、高浜虚子だ。自らが率いる雑誌「ホトギス」（1913年6月号）で「私は此頃、自分の妻子の物事につき自分と趣味の隔絶してゐることを憤る前に、之に興味教育を施すのを忘れてゐた…」と説き、高浜家とその縁者の子女の趣味教育を目的に回覧互選で家族や身辺の女性12人で「婦人十句集」を始めたところから「投句者婦人に限る」投句欄「台所雑詠」（「ホトギス」1916年12月号）が生まれた。炊事をはじめとする身の回りに関することを詠むよう勧め、台所に関連した課題を詠む女性のための公募の場となった「台所俳句」に近代女性俳句の歴史がはじまったといつてよい。

短夜や 乳ぜり泣く児を 須可捨焉乎

竹下しづの女

——寝苦しい夏の夜。泣きやまぬ赤ん坊を前に疲れ果てて、いっそ捨ててしまいたい（しかし、とてもそんなことはできるはずがない）と。

女性俳句の先駆けとされる竹下しづの女の本名は、静迺（しづの）。福岡県の裕福な農家の長女として生まれ、福岡女子師範学校に進学。小学校で教鞭をとったのち、小倉師範学校助教諭（音楽・国語担当）に。俳句は32歳から「天の川」主宰の吉岡禅寺洞に師事し、その勧めで高浜虚子の「ホトギス」へ投句をはじめると、わずか3カ月で掲句が巻頭句に選ばれた（「ホトギス」1920年8月号で女性初の巻頭作者になった）。「須可捨焉乎（すてつちまをか）」という漢文的な表現が斬新で母親の叫びがある印象的なこの句は、男性ばかりだった俳句の世界に衝撃を与えた。男女の自由に格段の差があった戦前の時代背景を踏まえることで、この句に込められた自己表現の欲求の重みも伝わってくるのではないだろうか。

1930年になると、ホトギス発行所で父の手伝いをしていた高浜虚子の次女・立子が、日本初の女性が主宰する俳句誌「玉藻」を創刊する。それは、父の女性俳句の普及を願う思いを背負ってのことだった。次の句は、その立子が（1926年に）はじめての作句であったと振り返っている作品である。

ままごとの 飯もおさいも 土筆かな

星野立子

——ままごとのご飯もおさい（おかず）も野摘みの土筆であることよ。

虚子とのかかわりの深い女性俳人たちによって形づくられた女性俳句としての「台所俳句」という言葉が、女性の日常詠を揶揄して用いられる。そんなことがしばしばあった1954年に女性俳人による女性俳人のための俳誌「女性俳句」が創刊されたことは、男女差を意識せざるを得なかった時代を象徴する出来事だ。その背景に女性歌人による女性歌人のための歌誌「女人短歌」の創刊（1949年）があり、違った俳句観を持ったもの同士が交流する場として「女性俳句」が立ち上げられた（女性俳人が珍しくなくなった1999年に解散）。会長や幹事といった役員を置かず、全員が平等。批評

もしないし優劣も競わず、年に1~2度集まって外部から招いた講師の話を聞いて各自の近況報告をする集会と俳誌の刊行が活動の柱だった。女性俳人たちが集う全国的な組織として発足した「女性俳句」は、戦後における女性俳句の隆盛に大きく貢献した。俳句を学ぶ女性が増え、女性俳人の活躍が目立つようになるなかで「台所俳句」が歴史的な言葉となり、「女性俳句」も歴史的なものとなる。現代においては生活や風景を描写するだけではなく取り合わせの妙味やイメージ喚起力を俳句に求めるような動きもあって、誰もが気兼ねなく俳句を楽しんでいる。

2025年は、国際女性年から50年の節目の年だった。ジェンダー平等は地道に積み重ねられてきた女性の地位を向上させるための取り組みや性別に基づく偏見や抑圧のない社会の実現に向けた取り組みによってある程度達成されてきたものの、依然として課題が多い。国連が2030年までの達成を目指しているSDGs（持続可能な開発目標）にもジェンダー平等を実現しよう（目標5）が含まれているが、日本はこの目標の達成に向けた進捗をめぐって世界に後れをとっている。「そのことを知ってはいても、なかなか自分ごととして捉えられない」人、「自分はこれまで女であること（男であること、どちらでもないこと）を理由に差別されたというようなことがない」人にとっては、「なぜ私たちはジェンダーについて考えなければならないのか」ということが学びの第一歩だ。ジェンダーについて考えることは、自分が育った環境を相対化して捉えること、自分らしさの発見にもつながる。そんなことを意識しながら、ミモザの一句を詠んでみるのもいいかもしれません。

すぎた なほ
杉田 菜穂さん

大阪公立大学大学院経済学研究科、教授
1980年奈良県生まれ。

大阪市立大学経済学部卒。大阪市立大学大学院経済学研究科修了、博士（経済学）。
同志社大学政策学部講師、大阪市立大学大学院経済学研究科准教授、同教授を経て現職。

著書に

「人口・家族・生命と社会政策」（2010年）、
「<優生>・<優境>と社会政策」（2013年）、
「人口論入門」（2017年）がある。

俳人としても活動しており、句集に

「夏帽子」（2010年）、『砂の輝き』（2014年）、
GOLDFISH'S SIGH（2021）がある。

おすすめ 図書



図書・情報スペースでは、男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信しています。図書貸出は、ひとり3冊・2週間までです。

『沈黙を破る「男子の性被害」の告発者たち』

2025年 文藝春秋

秋山 千佳 著

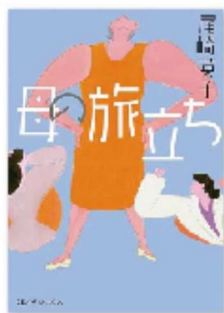


性被害は女子だけでなく男子にもある。この事実を日本社会が認識したのは昔のことではない。性被害を人に話すまでには、被害者自身が性被害を理解するのに時間がかかり、特に男子は沈黙せざるを得ない背景がある。そんな中、勇気ある告白者たちの体験が語られる。沈黙は弱さではなく選択でもあるが、日本社会、私たちは、サイバパーの沈黙を破る覚悟に立ち会える。

『母の旅立ち』

2025年 CEメディアハウス

尾崎 英子 著



自由奔放で家族や周囲の人達をいつも振り回してきた著者の母。そんな母が乳がんのステージ4からの脳転移となり、「その日」までの20日間を綴ったエッセイ。これまで多くの患者を看取ってきた次女・ようこが主治医となり、在宅で母を看取る日々が、サ高住や家族葬などを含めリアルに描かれている一冊。

『家が好きな人』

2023年 実業之日本社

井田 千秋 著



早起きに成功したり、豪華な朝ご飯を食べたり、二度寝したり…。こんな何気ない日常のほっこりする幸せに気づかせてくれる一冊。自分の家が好きな5人の暮らしが温かいイラストで描かれており、春に心機一転、部屋の模様替えを考えている方にもぴったり。この本を読めばおうち時間の過ごし方の幅が広がるはず。

講座・イベント レポート

たくさんの方にご来場いただき、ありがとうございました！

ここいろ ミモザの日

2026年3月1日(日)

俳句とジェンダー入門講座

～参加者の作品より～

手をとって心かよわす
ミモザの日

ミモザ買う帰る自転車
軽やかに



絵本を入口に 乳幼児期から始める おうち性教育



薬膳茶 ワークショップ



伊丹市男女共同参画施策 市民オンブード報告会



アルテイシアさんと ジェンダーを学んで 誰もが生きやすい社会をつくらう



パルーンアートに挑戦!!



ぶちばとー@ここいろ



折り紙de遊ぼう♪



ジェンダー俳句選 展示



講座案内

「性別に関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会づくりの拠点」施設として、男女共同参画の学習を目的とする講座を実施しています。

申込み・問合せ 伊丹市立男女共同参画センター TEL.072-781-5516



健康カフェ@ここいろ

[ここいろカフェ]

お茶を飲みながら、からだやこころについておしゃべりしましょう。ファシリテーターが進行します。

対象：テーマに関心のある方10人
参加費：無料
申込み：電話・窓口・センターHPで受付中(先着順)
ファシリテーター 西川 やすこさん(気功講師)

5/9.6/13 (各土曜日) 10:30～12:00

ここいろフリースペースにて

ここいろ ジェンダー講座

伊丹市は、性別にとらわれず一人ひとりを大切に
ジェンダー平等のまちをめざしています。

なぜ格差はなくなるのか? 真のジェンダー平等とは? 平等の目的は、人々が安心して人生を選び取れる環境をつくることです。その実現に向けて私達に何が出来るのでしょうか。

5/16.23.30
(各土曜日)
10:00～12:00
[3回講座]

①	5/16 (土)	社会心理学×ジェンダー ジェンダー格差を維持する心の仕組み ～平等に向けてできることは?～	土肥 伊都子さん (神戸松蔭大学 教授)
②	5/23 (土)	教育学×ジェンダー 教育現場の現在と未来 ～教育格差を維持するものとは～	朴木 佳緒留さん (神戸大学 名誉教授)
③	5/30 (土)	経済学×ジェンダー 失われた35年の原因と未来に 向けた家族・労働・制度	伊田 広行さん (立命館大学大学院 非常勤講師)

対象：テーマに関心のある方25人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円)
※要予約5/9(土)締切
申込み：電話・窓口・センターHPで受付中(先着順)

6月23日～29日は、男女共同参画週間です。

性の多様性から『じぶん』について考える

[男女共同参画講演会]

～誰もが排除されない社会をめざして子どもたちとの出会いからみえてきたこと～

性のあり方・性の多様性から『じぶん』について考える出前講座を通して、子どもたちから出る意見、見えてくる意識・偏見は、私たち大人が問われるものばかりです。私たち大人も『じぶん』についていっしょに考えてみませんか?

6/6 (土)

14:00～16:00

対象：テーマに関心のある方30人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円)※要予約5/29(金)締切
申込み：電話・窓口・センターHPで受付中(先着順)

講師 にじいろ i-Ru(アイル)
田中 一步さん
近藤 孝子さん

自分軸で考えるこれからの働き方と仕事の探し方

[女性のための就労支援講座]

～5mm動くとみえてくるものがある～

いつかは働きたいけど、年齢やブランクが不安、何からはじめていいかわからない・・・
育児や介護などがあり、家庭との両立が心配・・・
自分のライフスタイルにあった働き方を見つけたい・・・
働き方の選択肢が増えた今だからこそ、自分にとって最適な働き方を考え一歩踏み出しましょう

6/11.18.25
(各木曜日)
10:00～12:00
[3回講座]

①	6/11(木)	制度を理解し働き方を考える	片柳 竜さん (大樹生命保険株式会社 ファイナンシャルプランナー)
②	6/18(木)	～自分らしく働く～ フリーランスのはじめ方	藤本 亜希子さん (株式会社マumontレ 統括マネージャー)
③	6/25(木)	これからの、今どきの 仕事の選び方探し方	佐々木 妙月さん (情報の輪サービス株式会社 代表取締役)

対象：テーマに関心のある女性25人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円)※要予約各開催日の1週間前締切
申込み：5/1(金)9:00～電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

講座案内

スター・ペアレンティング講座

[子育て支援講座]

子どもとの向き合い方や居心地の良い関係を築くために、ワークショップを交えながら具体的な方法を学べる講座です。

6/15.22.29 7/6.13 (各月曜日)

10:00～12:00 [5回講座]

①	6/15(月)	・概論 スター・ペアレンティングとは ・問題を避ける
②	6/22(月)	・良い行動を見つけ出す
③	6/29(月)	・感情を認める
④	7/6(月)	・限度を設ける
⑤	7/13(月)	・新しいスキルを教える ・まとめ

①② 講師 奥平 恭子さん、竹下 郁代さん
(スター・ペアレンティング ファシリテーター)

対象：子育て中、子どもに関わる大人20人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円)※要予約6/8締切
申込み：5/1(金)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

ココロとカラダをほぐす音楽療法

[こころとからだ講座]

音楽を通してリフレッシュする時間を過ごしてみませんか？

音楽に合わせた簡単な身体ほぐしやフルート生演奏によるリラクゼーションなど

対象：テーマに関心のある方 20人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円)※要予約7/4締切

申込み：6/1(月)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

7/11(土)

10:30～12:00

講師 松井 優樹さん

音楽療法士・

ジャズフルーティスト・フルート講師

聴く力を土台に、想いを伝える・人生を語る

[男性セミナー]

①	7/11(土)	話せなくてもここにいていい —まずは“聴く”から始める—
②	7/18(土)	これまでのことを、少しだけ振り返る —経験を言葉にする前の時間—
③	7/25(土)	これからの話をまとめなくていい —人生を語るということ—

7/11.18.25 (各土曜日)

13:30～15:30 [3回講座]

対象：テーマに関心のある男性 20人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円)※要予約5/8締切

申込み：5/15(金)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

講師 吉田 善則さん キャリアコンサルタント・産業カウンセラー

今の私にちょうどいい「食で健康をまもる暮らし」

※大塚製薬株式会社と伊丹市は、包括連携協定を締結しています。

年代やさまざまな人生のステージ、ライフスタイルに応じた

「私にちょうどいい」食や生活習慣を、管理栄養士さんと一緒に考えましょう。

対象：テーマに関心のある方 30人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円)※要予約7/16(木)締切

申込み：6/1(月)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

7/23(木)

10:00～11:30

講師 稲田 瑞希さん

管理栄養士・

大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部

脳が喜ぶ心が笑う親子de臨床美術(クリニカルアート)

[若者対象講座]

対象：年長～小学生までの子どもと保護者1人

※子ども10人先着順

参加費：無料

材料費：子ども1人につき300円

持ち物：はさみ、作品持ち帰り用バック、手をふくタオル

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円)※要予約7/17(金)締切

申込み：6/1(月)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

作品「私だけの夢の熱帯魚」
を作ります

7/25(土)

10:00～12:00

講師 坂本 恭子さん

ランタン工房・臨床美術士

自分も相手も大切にしたい

[若者対象講座]

幼児期からはじめたほうがいい性教育ってなんだろう…

対象：子どもワーク 3歳～就学前のお子様15人

※お様が参加される場合は必ず保護者もおとなワークの参加をお願いします

おとなワーク 子ども向け性教育に関心のある方20人 *大人のみでの参加OK*

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円)※要予約7/25締切

申込み：7/1(水)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

8/2(日)

14:00～16:00

講師：NPO法人えんばわめんと堺 スタッフ

子どもワークとおとなワークは別室で行います



映画から考えるジェンダー 映画上映「ケナは韓国が嫌いで」

[生き方アップデート講座]

8/28(金)
18:30~20:20

現代の韓国社会を舞台に、生まれ育った場所で生きづらさを感じる女性が、新たな人生を模索する姿を描いたヒューマンドラマ。
(2024年/107分/韓国/日本語字幕)

対象：テーマに関心のある方20人
参加費：無料 自由席(開場18:00~)
申込み：7/15(水)9:00~ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

自己肯定感をアップするコミュニケーション~理論とスキルと実践と!~ [自立促進講座]

日常生活での生きづらさの根底には、「あなたの自己肯定感」がかかっているかもしれません。学び、体験することで自分らしく自信を持った私を目指しましょう。

9/2.9.16.30 (各水曜日)
10:00~12:00 [4回講座]

- | | | |
|---|---------|------------------------|
| ① | 9/2(水) | 「心のあり方」を知って楽になる |
| ② | 9/9(水) | 「自分も相手も大事にする自己主張」で楽になる |
| ③ | 9/16(水) | 「意見の違い」を受け入れて楽になる |
| ④ | 9/30(水) | 「人間関係」を大事にして楽になる |

講師 横山 由紀子さん(会話の泉)

対象：テーマに関心のある女性20人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳~就学前まで、一人につき1回300円)
※要予約8/26(水)締切
申込み：7/1(水)9:00~電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

グループカウンセリング 「40代での妊娠・出産と子育て」

[同じ悩みを持つ者どうして語り合う グループカウンセリング]

妊娠・出産までも不安を抱え40代で子育てをする中、周りに弱音を吐かず、悩みやストレスを抱え込んでいませんか?

9/14.28 10/5.19 11/2.16
10:00~12:00 (月2回 月曜)

ファシリテーター 荒木 美恵さん(臨床心理士、公認心理師)

カウンセラーがファシリテーター(進行役)として入り、安心・安全な空間で秘密が守られるルールの中で行われます。

対象：テーマについて悩む女性10人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳~就学前まで、一人につき300円)
※要予約9/7(月)締切
申込み：8/3(月)9:00~ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

メディア・リテラシーを学んで"政治とジェンダー"を考えよう

[メディア・リテラシー講座]

対象：テーマに関心のある方20人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳~就学前まで、一人につき1回300円)
※要予約9/19(土)締切
申込み：8/3(月)9:00~ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

9/26.10/3.10 (各土曜日)
14:00~16:00 [3回講座]

講師：NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所

ニットカフェ@ここいろ

[ここいろカフェ]

編み物初めての人も、おしゃべりだけの人も、手ぶらでも、家にある編みかけのものを持ってこられてもOK

10/19.11/16 (各月曜日)
13:30~15:30

対象：編み物に関心のある方10人
参加費：無料 持ち帰りたい材料については実費
申込み：9/1(火)9:00~電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

ファシリテーター
元見 三郎さん(元市内有名手芸店店主) 他1名

ここいろフリースペースにて

ここいろ市民ネット会議

“ここサークル”メンバー募集中!

伊丹市在住・在勤・在学・市域で活動する個人またはグループで、ジェンダー平等の推進を目指す方であれば、どなたでもメンバーになることが出来ます! 皆さんのご参加、お待ちしております。



次回ミーティング
7月5日(日)10:00~11:30

メンバー登録
こちらから



ここいろ

愛称「ここいろ」は、
一人ひとり（ここ＝個々）が
自分の色（いろ）を彩ることのできる
拠点施設であることを願って、
公募で名付けられました。

伊丹市立
男女共同参画センターは
SDGs を支援しています

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



目標 5 (ジェンダー)
ジェンダー平等を実現しよう

開館時間

月～土 午前9時～午後9時
日曜日 午前9時～午後5時30分
*第1日曜(5月・1月は、第3日曜)のみ開館

休館日

日曜日(左記開館日除く)、祝日
年末年始(12/29～1/3)

アクセス

阪急伊丹駅から徒歩約7分/JR伊丹駅から徒歩約8分
お車でのお越しの際は、宮ノ前地区地下駐車場(有料)等をご利用ください。

ホームページ



Instagram



facebook



LINE



伊丹市立男女共同参画センター ここいろ

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-2-2 伊丹商工プラザ5階

電話：072-781-5516

FAX：072-781-5530

<https://www.itami-kokoiro.jp>